

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター わかゆり学園		
○保護者評価実施期間	R 8年1月13日		～ R 8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35 (回答者数)	22
○従業者評価実施期間	R 8年1月13日		～ R 8年1月23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15 (回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お子さんたちがのびのびと体を十分に動かして遊べる環境が整っている。(遊戯室、園庭、プール) また、園庭は緑が豊かで自然と触れあいながら遊ぶことができる。	1日の流れを動静のメリハリをつけて流れを汲んでいる。また、広いスペースについてはクラス毎で利用、職員間で声をかけあうなどして安全に遊べるよう努めている。 保育計画のねらいによって遊具の入れかえや、展開方法を変えている。	安全面の確保のために、ヒヤリハットを記録に残し、それを考慮した上での遊びの組み方の検討を続けている。また、それを行った上で、お子さんたちが自ら楽しく遊べる為の工夫や職員の関わり方の検討も同様に行っていく。
2	親子登園日を設け、保護者支援を行っている。	親子登園の日に保護者の方と話し、その時の悩み事などをタイムリーに聞く。また、ご自宅や他施設での様子、学園での様子を情報共有し、お子さんの全体像を把握する。お子さんへの理解を深める為の学習会、ペアレントプログラムを実施。保護者の方向士の横のつながりを持つ機会を持つ。	親子登園の時に親子で楽しく遊べるプログラムの検討、学習会の充実を図る。
3	地域連携を意識して取り組んでいる。	併用している事業所や幼稚園、保育所、就学先に訪問をしたり電話連絡をして状況の共有をし、支援に活かしている。	引き続き、他施設での様子を把握し、お子さんの状況把握に努めるとともに、相手先の先生方とも話をする事で、お子さんの発達を一緒に考えていける関係づくりを目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物の老朽化	建物の老朽化により破損箇所やにおいなど、気になる箇所が散見されている。	破損箇所についてはその都度修理を行っている。優先順位をつけて保育に影響が出ないようにしていく。建物は古いですが、清潔感はあるように掃除を徹底していく。また、移転を計画中である。
2	成人施設が同じ敷地内にある。	バスや玄関等、共有の場所がある。ゾーン分けをしているが、構造上分けきれないこともあり、留意が必要。	日々の活動において、ゾーン分けや時間で分けながら児童、成人ともに安心して生活できる環境を整えていく。
3	常駐の専門職がおらず、常に情報共有をすることが難しい。	非常勤ではあるが、見ていただく要点を事前に検討し、アドバイスをいただいている。	必要性に応じて、お子さんが通っている病院等の訓練に職員が同行し、家庭と共通認識をもって、支援が出来るようにしていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	心身障害福祉センターわかゆり学園 児童発達支援センター					公表日	令和8年 3月13日				
					利用児童数	35人		回収数	22名		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	21	1	0	0	・教室、遊戯室、園庭などすべてが広々としていて、伸び伸びと活動できていると思います。 ・3人のクラスなので十分過ぎるくらいです。	スペースは十分に確保されています。活動内容によっては狭く感じられることや、広すぎる環境がマイナスに働くことがありますので、パーテーション等も使用するなど空間を考えながら活動の提供を行ってまいります。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	17	3	2	0	・子供の興奮状態などで、先生が手薄で怖い場面が多々ある時があります。 ・先生の手が足りない時は適宜別のクラスの先生が補助に入ってくださったりしています。 ・十分過ぎるくらい沢山の先生がついてくださっています。	職員の配置については応援体制をとりながら国の配置基準以上の職員数で支援をしています。場面によって職員が不足になるときは職員同士声を掛け合いながらフォロー体制を組んでおります。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	1	0	0	・今日行う活動などもホワイトボードに絵カードで説明がされておりわかりやすいと思います。	引き続き、お子様にわかりやすい環境となるよう整備してまいります。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	17	5	0	0	・トイレが臭かったりする。 ・遊戯室の隅っこ等のホコリや空調の清掃が気になります。 ・トイレが古いせいか、たまにとでも臭うことがある	掃除は毎日行っていますが、行き届いていない場所がありますので、さらに留意をして行っています。トイレのにおいに関しては大変申し訳ありません。原因究明が出来ておらず、換気、清掃で対応をしております。			
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	0	0	1	・担当の先生はみなさん各児童の特徴を理解し対応してくださっています。	職員一人一人が専門性を高められるよう研修の充実を図ってまいります。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	20	2	0	0		支援プログラムはホームページにアップされています。支援プログラムに基づき、支援を提供してまいります。			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	22	0	0	0		引き続き、お子様のご様子や保護者様とお話をしながら個別支援計画の作成を行ってまいります。			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21	1	0	0		引き続き具体的な支援内容が設定できるよう努めてまいります。			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20	2	0	0		職員全員が児童発達支援計画を共有していますが、さらなる共有を図り、支援計画に沿った支援が出来るよう会議等を開いてまいります。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	0	0	0	・季節や時候にあった制作や歌などの活動があるので固定化はされていないと思います。	活動プログラムについては季節や行事に応じた内容に設定をしています。更に充実できるように検討してまいります。			
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	9	2	8	3	・基本所属が保育所ですので、そちらの交流で充分満たしている	年長児の交流保育が実施されています。地域の子どもたちとの交流を検討してまいります。			
保 護	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21					引き続き、丁寧な説明を行ってまいります。			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	0	0	0		引き続き、丁寧な説明を行ってまいります。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	0	0	0	・月に一度心理士の先生を交えてお話の機会があります。	ペアレントプログラムを実施しました。また、家族支援プログラムや保護者向けの研修会等を充実できるように検討してまいります。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	22	0	0	0		親子登園にご協力いただきありがとうございます。お子様の状況等親子登園日や連絡帳、お電話などで共通理解を図ってまいります。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	0	0	0	・親子登園の際に伺うことができます。	親子登園にご協力いただきありがとうございます。引き続き色々とお話できる時間を設けてまいります。			

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	22	0	0	0	今後もお子様の状況を確認しながら保護者の方の思いを大切にまいります。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	18	2	0	2	クラスごとに集まる機会がありますが、全体の保護者会は実施がありません。保護者の交流できる機会を検討してまいります。また、家族参観等できょうだい参加について検討してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	4	0	0	相談がある時は適宜個別での面談をして頂けています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21	1	0	0	連絡帳やお電話、メール、通知文等で情報伝達を引き続き行ってまいります。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	16	1	2	3	わかゆり通信や通知文等でお知らせをしています。また、自己評価の結果等は掲示板に掲示するとともにホームページにて公表をいたします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	21	1	0	0	引き続き個人情報の適正な取扱いについては徹底してまいります。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	2	0	1	各種マニュアルについては策定されております。職員は救命講習、防犯講座を受講しております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	21	0	0	1	・月一回避難訓練があります。 毎月避難訓練を実施しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20	1			安全計画については掲示しており、各クラスにもファイリングしております。計画に基づき安全な保育を行ってまいります。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	21	0	0	1	引き続き、事故（怪我）が起きた時にはすぐにご連絡をし、状況説明をまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21	1	0	0	今後もお子様の気持ちに寄り添い、安心感をもって通所できるよう努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	2	0	0	お子様の気持ちに寄り添い、楽しく通えるよう、努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	0	0	0	保護者の皆様のご意見を参考にし、より良い事業所になるよう努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 心身障害福祉センターわかゆり学園 児童発達支援センター

公表日

令和8年3月13日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員親子登園日は狭く感じられるが、通常は規定以上のスペースが確保されており、適切と思われる ・ 子どものメンバーによって玩具や環境設定の設置を工夫しています。遊戯室が広いため、人数が多いとリスクが高まることが予想され、クラスごとの利用が主となっています。 ・ 危ない箇所があれば直ぐに対策を考えてミーティングなどで職員間で共有している。 ・ 利用定員に対する基準を超えた面積を確保しております。登園人数が少ない時には、スペースが広すぎるため、物の設置や環境調整を行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部屋の広さは人数に見合っていると思うが園庭の広さは、クラス単位で活動する場合は広すぎるため、子ども達の行動範囲も広くなり、特に周囲の植木の影に子どもが探索活動で入り込むことがしばしば見られるため、職員同士で声を掛け合いながら職員の配置など安全面での配慮を行っている。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 状況を確認しながら必要な場所に必要人数で対応できるよう配慮している。 ・ お子さんの特性に応じて効果的に動けるよう話し合いを重ねています。 ・ 子どもの状態によって、他クラスからの応援をもらい、協力・連携しながら保育を行っているのがよいところだと思う。 ・ 職員体制が日によって欠員があれば、部分応援または1日応援を前日のミーティングで調整し、翌日の療育を円滑に行えるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配置基準を順守しています。今後も応援体制が取れるように状況に応じた配置を行っていきます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	13	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚情報を頼りにしている子が多いので、保育内容や流れなどお子さんの特性に合った提示の仕方をしています。 ・ 人が多くなり動きが多いと危険な場合や物がなく目的が分かりづらい場合の環境設定は工夫している。 ・ 室内環境は、子ども達に余計な情報が入らないように棚の中が見えないように覆ったり、見えない場所へ収納するようにしている。 ・ 言葉だけでは、見通しを持って行動することが難しい為、子ども達にわかりやすいイラストや写真を掲示したり、絵カードなどを用いて視覚からわかるようにしている。また、子ども達が活動する1階、2階には成人施設が併設されている為、扉などで、仕切りをして安全確保を行なっているが、仕切りや、扉などで仕切りが難しい箇所については、職員間で子どもの行動に合わせて危険のないように個別に対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経年施設であり成人施設と同じ建物であることから設計上の課題があります。ゾーン分けを行い、子どもにわかりやすい環境になるようさらに工夫をしております。 ・ トイレが薄暗く、臭いが気になる現状にあります。清掃等を行っているが改善されないため、引き続き対応をしております。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化に伴う影響はあるものの、掃除は毎日行われており、清潔に保つよう努力をしている。 ・ 清掃、消毒を行い、清潔な環境を保とうとしているが、建物の老朽化が目立つため、汚れ等が清潔ではないと感じることがある。 ・ 生活で心地よく、室温や湿度、日差しの眩しさなどに配慮して、活動しやすい環境にしている。 ・ こどもの様子をイメージし、衛生面・安全面に気をつけて、環境を整えている。 ・ 室内遊びの際に使用した玩具は、毎日消毒を行い衛生面に配置している。子ども達の活動に応じてシートやテーブルを配置して遊びやすい環境設定を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員清掃や業者委託等で施設設備を維持し、必要な修繕を行っておりますが、経年施設であることから追いついていかないところがあります。引き続き衛生面の徹底をしています。 ・ 各クラス、空気の循環について気になるため、定期的な換気に努めていく。

	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の状態に合わせて、過ごす場所を臨機応変に変更している。 ・保育室や隣の空き室、廊下、室内の棚の下部を個別で落ち着くスペースとして活用したり、子どもが場所を選んでクールダウンできるようにしている。 ・個別指導などを行う際は、保育室以外の部屋を設けており、外部の影響のない環境で取り組みを行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時個別の部屋を設定をすることは難しいが、相談室や空いている保育室、また、衝立等でスペースを作り状況に合わせて使用している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で、保育後に振り返りをして、親子の状況や支援内容、気になることやヒヤリハットなどを出し合っている。 ・クラスを超えて保育の振り返りや支援の検討を行う時間をとっている。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表や、直接保護者の方の話をお聞きしたことを踏まえて、支援にいかしている。 	保護者向け評価表の回収率が低かったため、回収率を高めること、日本語が難しい保護者に対しては丁寧に説明をし、意向を把握できるよう努めてまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日のミーティングで、職員間での確認事項があれば、全体に伝え業務改善に繋げている。 ・会計年度任用職員の先生方にも意見を聞くことを毎月1回行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が意見を言えるような環境を整備して多くの意見を集約して業務改善につなげているよう努めていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	15		外部評価を行っていないため、今後検討をしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・正規職員の研修は定期的に行われているが、会計年度任用職員に対する研修は時間の制限もあり難しいこともある。 ・研修内容を共有して、実践で活かすことで、自分の支援の質の向上に繋げている。 ・「保育士会研修」で保育に関する研修や、埼玉県内の児童発達支援センター、事業所における研修「実践交流セミナー」に参加する中で自己啓発に努めている。 	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	ホームページに公表済。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムを親子にわかりやすくポイントを伝えたり、魅力ある内容を発信していくことが課題だと感じる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者ニーズは事前に記入をお願いして、それをもとに対面で面談を行っています。 ・アセスメントの見極める力をさらに磨いていく必要があると感じる。 ・年に2回、親子登園の時に「親子わくわくタイム」として子どもの様子に応じた遊びを担任、保護者と一緒に楽しむ時間を設けている。その中で保護者からのニーズも児童発達支援計画の聞き取りも行い、学園での子どもの様子も保護者と共有しながら児童発達支援計画の中に生かして行くようにしている。 ・利用児のニーズ、保護者のニーズ、職員の所見をもとに、支援計画を立案している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査後、児童発達支援計画案を作成、会議をもって決定をしている。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と児童発達支援管理責任者で検討している。 ・児童発達支援計画を作成する際に子ども達一人ひとりの支援計画を児童発達支援管理者とクラス担任で共有した上で作成している。 ・支援計画会議の中で担当者間で話し合い、支援のあり方を検討している。保護者のニーズに偏りすぎず、こどものニーズも考慮している。 	

14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・計画作成後に、定期的に支援計画の振りかえりを行い、クラス内でその都度共有しながら支援を行うようにしている。 ・職員間で定期的に支援計画を見直し、関わり方について共通認識を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援中意識するようにしているが、より意識できるよう、見える化した上で支援を行っていくようにしていきます。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0		<ul style="list-style-type: none"> ・共通言語で全職員が、アセスメントの際に確認できると良い。太田ステージ、発達検査の結果等を用いる。
16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・5領域の項目が支援計画に設定され、具体的にお子さんに合わせた支援内容を設定している。 	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任同士で話し合いながら、子ども達の特性に応じて個々の子どもに合わせた提示の仕方や支援のやり方を工夫している。 	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ベースはきめているが、お子さん状況に合わせてながらプログラムを季節のものや保育計画でのねらいに基づいて行なっている。 	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画を個々にあわせて作成し、個別の課題や集団活動などを遊びや活動の中で支援している。 ・1日の活動の中で、遊戯室遊び、室内遊び、戸外遊びなど、集団で活動を行う中で、その子どもに見合った遊びを個別に誘いかけている。 	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前日の保育後と当日の朝、クラス担任で話し合い、情報共有している。 ・朝のミーティングで、その日の動きや役割分担・注意事項を確認している。 ・会計年度職員との連携では、登園前、降園後にその日の取り組みや情報などを共有を行うようにしている。また、園全体の行事などは、進行状況に合わせて定期的にクラスや担当同士で話し合いの機会を設け円滑に進められるようにしている。 ・支援開始前の時間は限られているため、なるべく前日に支援内容の確認や準備を行っている。 	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間で振り返りを行い、次の保育に活かせたり、安全面への配慮につながっている。 ・保護者からの相談の共有、職員の考え方の方向性のすり合わせは意識して行なった。 ・保育後に振り返りを行い、関わりを確認している。その日のうちに情報共有が難しい場合は、翌日までに確認するよう心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日職員間で話し合いを行っているが、勤務状況やバス乗車等で職員全員が揃わないこともあるため、不在の職員には次の日の朝には情報共有をしていく。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス日誌、個人記録等、必要なものは記録として残している。 ・記録をしながら、担任間で確認をとり、支援を検討したり改善することを話し合っている。 ・毎日記録し、今後の関わりにつなげている。 	
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にモニタリングを行い、見直しをした上で支援計画の変更を行っている。 	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて関係機関との連携を図っている。相談員が入っているケースが少なく、担当者会議の開催は少ない。 ・併用先訪問を可能な範囲で担任も同行しています。 ・状況を理解した職員が対応しているが、私は参加していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議が実施されるときには参画しているが、相談支援事業所が入っているお子様が少なく、会議自体の開催がほとんど行われていない。参加する必要があるときには児童発達管理責任者やクラス担任等が出席をする予定。

関係機関や保護者との連携	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて関係機関との連携を図り、同行や訪問も行っている。 ・お子さんを中心に、関係機関と連絡を取り、連携を図っている。できるだけ顔の見える関係での連携の方が、職員としても次に繋げやすく、親子にとっても良い支援につながると感じる。 	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・併用先に訪問したり、連絡を取り合い、お子さん状況や支援を共有して、連携を図り、相互理解に繋げている。 	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・移行支援計画を作成し、学校の先生と対面でお話をする機会を作っています。 ・保護者の希望がある場合、小学校と連絡を取り、移行支援として情報共有などを図っている。 	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担当児の併用先の事業所の見学や情報共有などを行い、連携を図っている。 	児童発達支援事業所連絡会の開催を年2回実施。事務局として運営に携わっている。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関や専門職の助言を受けたり、通院や併行先に同行し、子どもの状況や医療状況を把握して支援に活かしている。また、職員を外部研修に参加させ、研修内容は共有している。 	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会、子ども部会等へ参加。事業所連絡会は事務局の中心となり積極的に参加をしている。 	・関係している職員以外の職員が理解としては高くないので、全体としての取り組みの周知が必要。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	—	—		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する年長児が交流保育に参加。地域の保育園での活動に参加している。 ・交流保育の取り組み、地域の公立保育所との関わりがあり、よかった。 ・交流保育や、近隣の保育所が散歩で遊びに来た。 ・年長児（希望者）を対象に、市内保育所に交流保育を実施している。 	・年長児の交流保育は実施しているが、園全体としての取り組みが実施できていないため、検討をしていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・親子登園を行っているため、保護者との共通理解は図りやすい。 ・親子登園の中で共通確認したり、必要に応じて面談の機会を設けています。 ・親子登園の際には、保護者と単独登園での様子や家庭での様子を共有している。また、保護者からのニーズも合わせて聞き取りながら支援に繋げるようにしている。 ・親子登園日に単独登園時の様子を報告したり、家庭での様子を確認している。動画や画像等を用いて保護者に伝わりやすいようにしている。 	・親子登園を通して、子どもの発達の状況や課題について話をしているが、外国籍の保護者等、共通理解について難しいこともあり、今後も保護者の方とコミュニケーションをとり、共通理解を深めていきたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・親子登園、ペアレントプログラムを実施 ・ペアレントプログラムを行い、人数は少なかったが、参加者に好評であった。 	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達管理責任者が説明を丁寧に行なっている。 		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に保護者からの聞き取りの時間を設けて、支援計画に繋げている。 		
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達管理責任者が計画について説明をし、同意を得ている。 		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0	・親子で実際に保育に参加する中で、お子さんの様子を確認しています。 ・保護者の悩みに共感した上で、支援者としての客観的な所見を伝え、関わり方や取り組みを保護者と一緒に考えている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	14	1	・クラスごとにペアレントサポートタイムを設けたり、学習会を行う。親子登園施設でもあることから保護者同士顔の見える関係性ができている。また、行事の時にきょうだい児が参加できるよう工夫をしている。 ・公認心理師によるペアレントサポートタイムを月1回設けています。 ・給食時に保護者席と子ども席に分け、子どもは集団で食べる意識を、大人は交流の時間としている。 ・兄弟参加の行事を設け、家族で楽しめる内容の催しをした。 ・家族参観、運動会、お楽しみ会などの行事にきょうだいも保護者と共に観に来る機会を設けている。家族参観ではきょうだいも一緒に参加できる遊びを取り入れなが、家族間での交流も見られる。お楽しみ会では、きょうだい合奏の演目の中できょうだい間で交流する機会を設けている。	きょうだい児支援については行事の参加をしてもらっている。きょうだい児にスポットを当てるような活動には至っていない。今後検討が必要。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	相談の申し入れがあった場合にはすぐに面談できる状況を作り、対応をしている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	14	1	・わかゆり通信は月に1回発行。また、ホームページに施設概要を載せている。	お便りや通知文等の紙ベースでの発信をしているが、言葉の問題や伝わりにくいこともあるため、情報の発信方法についてさらに検討をしていきます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	個人情報については持ち出さずに厳重管理をしている。保護者の同意のもと、関係機関に個別支援プログラムや移行支援の書類を渡す場合も持ち出し簿に記載の上、上司の確認をとっている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	・保護者との話をする際、個別に配置が必要な内容の時には、話す場所や声の大きさなどを配慮して対応するようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	2	・特別支援学校の生徒や保育園児が園庭を使うことがあった。 ・園での行事がコロナ移行少なくなり規模も縮小したため、地域に向けたことが取り組めていなかったが、近隣保育所や支援学校の子どもたちが散歩に来て利用できた。	・地域の学校や保育所の子どもたちに園庭を開放することはあったが、地域住民を招待はしていない。今後検討が必要。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	緊急対応時の研修や防犯講座、感染症対応の研修等必要に応じた訓練を実施している。	・引き取り訓練はここ数年実施できていないので、検討は必要。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	・毎月避難訓練を行っており、その都度対応や反省などの振り返りを行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	0	・書類で提出する際や、保護者に直接確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	15	0	・医師の指示書に基づき、管理栄養士や看護師に確認のもと対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	安全計画の下日頃危ないことや気を付けたいことはヒヤリハットとして職員間で共有し、安全管理に心がけている。	・全員の職員が内容理解や支援へ反映できているかという点では、不十分であるため、研修や訓練等を継続してまいります。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14	0	保育者にも説明や声をかけ、理解と協力を求め、安全を心がけている。	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	・子どもの安全上、怪我に繋がることがあれば、ヒヤリハットに記載し、ミーティングで、状況説明、原因、対策を伝え、共有を図り、再発防止に努めている。		

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年研修を行い、改めて虐待防止の意識を高め、理解を深めている。毎年続け、職員全員が意識を高く持つ必要があると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画視聴で研修を受講しているが、動画視聴だけでなく、現状の保育に照らし合わせた内容だと、より理解が深まると感じるため、今後の研修内容を検討していく。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に関しては該当児はいないため行っていないが、該当児がいる場合はマニュアルに沿って会議や保護者への説明を行うこととなる。 ・今年度は身体拘束のケースはいないが、必要な際は行っている。 	